

修士論文（要旨）

2024年1月

慢性疾患と共に生きる学生のキャリア選択における心理的特徴に関する研究

指導 石川 利江 教授

国際学術研究科

国際学術専攻

心理学実践研究学位プログラム ポジティブ心理分野

222J2060

山口 貴司

Master's Thesis (Abstract)

January 2024

Research on the psychological characteristics of students with
chronic conditions during their career development

Takashi Yamaguchi

222J2060

Master of Arts Program in Positive Psychology

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Rie Ishikawa

目次

第1章 問題と目的.....	1
1.1 キャリア形成における環境要因とメンタルヘルスへの影響.....	1
1.2 キャリア支援の発展と就職活動生に求められる資質.....	2
1.3 慢性疾患患者の現状とキャリア支援の必要性.....	3
1.4 研究の目的.....	4
第2章 方法.....	6
2.1 アンケート調査.....	6
2.1.1 調査時期と対象.....	6
2.1.2 調査内容.....	6
2.1.3 調査方法.....	7
2.1.4 倫理的配慮.....	7
2.2 インタビュー調査.....	7
2.2.1 調査時期と対象.....	7
2.2.2 調査内容.....	8
2.2.3 調査方法.....	8
2.2.4 倫理的配慮.....	8
第3章 結果.....	9
3.1 アンケート調査.....	9
3.1.1 使用尺度の信頼性の検討.....	11
3.1.2 疾患の有無における差の検討.....	12
3.1.3 職業未決定とキャリア選択自己効力感および自己受容性の関連.....	14
3.2 インタビュー調査.....	17
3.2.1 分析方法.....	17
3.2.2 SCATによる各対象者の分析結果.....	17
第4章 考察.....	73
4.1 アンケート調査による量的分析結果に基づく考察.....	73
4.2 インタビュー調査による量的分析結果に基づく考察.....	74
4.3 総合考察.....	80
4.4 研究の意義と今後の展望.....	81

参考文献

資料

1. 問題と目的

慢性疾患を持つ学生は、幼少期からの闘病生活や喪失感により自己効力感が低くなり易く、また、日常生活の様々な場面において行動が制限され、適切な時期に適切な経験ができないことなどから自己受容が低くなる傾向にあるとされる。こうした観点から、慢性疾患を持つ学生は一般の学生に比べて職業選択や進路決定が困難であると予測される。しかしながら、医療や看護、福祉の領域において慢性疾患に対する研究は行われているものの、進路選択を行う時期における慢性疾患を持つ学生の心理的特徴に焦点を当てたサポート研究は少ない。

以上のことから、本研究ではまず、大学生を対象にアンケート調査を行い、以下の様な点について検討を行う。(1)慢性疾患を持つ学生は一般の学生と比較して職業選択における自己効力感が低く、またその起因する要素にも違いがある。(2)慢性疾患を持つ学生は一般の学生と比較して自己受容が低い傾向にある。(3)慢性疾患を持つ学生は、職業を選択することが一般学生よりも困難であるため職業未決定傾向が高くなる。さらに、アンケート調査により抽出された慢性疾患を持つ学生に対してインタビュー調査を行い、その心理的特徴について詳細な実態を明らかにし、今後の支援の在り方を探究することを目的とした。

2. 方法

2.1 アンケート調査

18～25歳までの大学生・大学院生(男女)を対象として、Webアンケートフォームとアンケート用紙による調査を行った。アンケートには、フェイスシート(年齢、学年、性別、慢性疾患の有無、および病名、病歴、病気の程度、通院状況)の他、キャリア選択自己効力感尺度(花井, 2008)25項目、自己受容尺度(宮沢, 1988)の下位尺度である自己信頼と自己承認の計13項目、職業未決定尺度(下山, 1986)の各下位尺度より3項目ずつ計15項目を使用した。有効回答504名(一般学生440名、慢性疾患を有する学生64名)について、 t 検定および重回帰分析による分析を行った。

2.2 インタビュー調査

先に実施したアンケート調査において慢性疾患の有無に「有り」と回答し、且つ、インタビュー調査への協力依頼に「同意する」と回答した学生のうち9名を対象に、半構造化面接を行った。インタビュー内容を基に逐語録を作成し、SCATを用いて質的に分析した。

3. 結果

3.1 アンケート調査

疾患の有無における差を検討するため、 t 検定による分析を行った。その結果、慢性疾患を持つ学生は一般の学生に比べて自己受容性が低く、キャリア選択における計画立案や意思決定に対する自己効力感が低いこと、職業決定において情緒的混乱を招き易い傾向にあることが示された。

次に、その要因を探るため、重回帰分析を行った。キャリア選択自己効力感およびその

下位尺度を従属変数、自己信頼、自己承認、学年差、疾患の有無を独立変数とした重回帰分析では、キャリア選択における自己効力感に対して自己信頼が有意な正の効果を示すことが明らかとなったものの、慢性疾患の有無によるキャリア選択自己効力感への影響はほとんど見られなかった。また、職業未決定傾向およびその下位尺度を従属変数、自己信頼、自己承認、学年差、疾患の有無を独立変数とした重回帰分析では、自己受容性が職業を決定するうえでの未熟さや情緒的混乱、決定の先延ばし、安易な職業選択に有意な負の効果があることが示されたが、疾患の有無の有意な効果は見られなかった。さらに、職業未決定傾向およびその下位尺度を従属変数、キャリア選択自己効力感の各下位尺度、学年差、疾患の有無を独立変数とした重回帰分析では、情報収集以外の因子との間に様々な有意な効果が示されたが、疾患の有無の効果はほとんど無く、職業決定に関しては慢性疾患を持つ学生と一般の学生との間に差異は見られなかった。

3.2 インタビュー調査

作成されたストーリー・ラインや理論記述を基にそれぞれの対象者のアンケート調査結果より算出した各使用尺度の平均得点との比較考察を行った。その結果、方向性が明確化されている学生は概ね自己評価および目標選択における自己効力感が高い傾向にあったが、計画立案への自己効力感は低～中程度であった。

次に、自己受容性について検討したところ、量的分析において一般の学生よりも自己受容性の低さが示されているものの、全対象を通して中程度の自己受容性が見られた。

最後に、職業未決定傾向における特徴としては、明確な目標を持って進路選択に取り組むことへの自己効力感の高さが未熟や安直を抑制することが示された。一方で、自己受容性、自己評価、目標選択への自己効力感の高い学生において、未熟や混乱が見られた。

4. 考察

量的分析では、キャリア選択自己効力感および自己受容性においては慢性疾患を持つ学生の方が一般の学生に比べて低いことが示されているものの、職業未決定傾向については両者にほとんど差がないことが明らかとなった。この点については、疾患の有無だけでなく、罹患歴や病気の程度など、より詳細なデータを用いた分析が必要と考えられる。

また、質的分析においては、慢性疾患を持つ学生の中でも疾患を受容している者は自己受容性が比較的高いことが伺える。しかし、目標が明確であるほどキャリア選択に対する自己効力感が高く、職業未決定傾向も抑制されるものの、予測困難な症状変化や将来の職場環境への不安が阻害要因になり得ることが示された。

以上のことから、慢性疾患を持つ学生に対するキャリア支援においては、個人の疾患の受容程度を理解したうえで、目標を明確化するとともに、疾患を持ちながら働くことへの不安を軽減するための具体的な方策を探索することが重要であると思われる。

引用文献

- 秋山史子 (2015). 大学生の進路選択に対する自己効力感, 就業動機, および職業未決定の関係 学習院大学人文科学論集 X X IV, 203-222.
- 江口尚 (2021). 難病患者における治療と仕事の両立支援に関する研究の現状 産業医学レビュー, 34 (1), 51-76.
- 榎本淳子・水野芳子・岡嶋良知・川副泰隆・森島宏子・立野滋 (2019). 成人先天性心疾患患者の就業状況とその背景要因 *Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery*, 35(1), 18-26.
- エリク・H・エリクソン 西平直・中島由恵 (訳) (2021). *アイデンティティとライフサイクル* 誠信書房
- 花井洋子 (2015). キャリア選択自己効力感の構造と測定尺度の開発 関西大学審査学位論文, 1-254.
- 春名由一郎 (1998). 難病等慢性疾患患者の就労実態と就労支援の課題 日本障害者雇用促進協会障害者職業総合センター 調査研究報告書, No.30, 1-198.
- 春名由一郎 (2021). 難病患者の就労支援ニーズと制度・サービスの多分野連携の課題 *保健医療科学*, 70 (5), 477-487.
- 堀越弘・道谷里英 (2018). *新版キャリアの心理学 第2版 - キャリア支援への発達のアプローチ* ナカニシヤ出版
- 古市裕一 (2012). 大学生の職業忌避的傾向と自己効力感および就業不安 岡山大学大学院教育学研究科研究集録, 151, 43-50.
- 今尾真弓 (2016). 慢性疾患患者のモーニング・ワークのプロセス ナカニシヤ出版
- 石井悠 (2019). 小児慢性疾患経験者にみるイルネス・アンサーテンティの発達の影響 - 成人期における将来展望との関連に着目して - *質的心理学研究*, 18, 217-241.
- 石井美穂・平山栄治・野村和孝・前田駿太・嶋田洋徳 (2015). 大学生のアイデンティティと自己効力感が職業未決定に及ぼす影響の検討 *早稲大学臨床心理学研究*, 15 (1), 45-52.

Joy E. Beatty (2012). Career Barriers Experienced by People with Chronic Illness: A U.S. Study. *Employ Respons Rights*, J24, 91-110.

梶谷康介・土本利架子・佐藤武 (2021). 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックが大学生のメンタルヘルスに及ぼす影響 ——文献および臨床経験からの考察—— *健康科学*, 43, 1-13.

神庭直子・石川利江 (2011). 成人アトピー性皮膚炎患者におけるアトピー性皮膚炎に対する認知と well-being と関連 ——アトピー性皮膚炎否定的認知尺度・アトピー性皮膚炎肯定的認知尺度の作成と認知パターンが QOL および自己肯定意識に及ぼす影響の検討—— *ストレス科学研究*, 26, 53-60.

春日由美 (2015). 自己受容とその測定に関する一研究, *南九州大学人間発達研究*, 5, 19-25.

木村周 (2017). キャリアコンサルティング 理論と実際 一般社団法人雇用問題研究会

北見由奈・森和代 (2010). 大学生の就職活動ストレスおよび精神的健康とソーシャルスキルとの関連性の検討 *ストレス科学研究*, 25, 37-45.

小柴薫・高橋恵理子・根建金男 (2016). 大学生のキャリア選択に対する認知的評価と自己効力感が, 進路意思決定の困難さ, 主観的幸福感に及ぼす影響 *早稲大学臨床心理学研究*, 16 (1), 65-77.

楠奥繁則 (2005). 大学生の進路選択における自己効力の阻害要因に関する一考察——アイデンティティの視点から—— *立命館経営学*, 44 (2), 105-123.

町田尚史・開本浩朱 (2016). 進路選択能力の構造に関する考察——進路選択能力と進路選択自己効力感との関係—— *商大論集*, 67 (3), 15-28.

三宅義和 (2005). 非選抜型大学の就職支援に関する一考察——教職員への質問紙調査を通じて—— *神戸国際大学紀要*, 68, 11-27.

マーク・L・サビカス, 日本キャリア開発研究センター (監訳) 乙須敏紀 (訳) (2020). サビカス キャリア・カウンセリング理論 福村出版

日本能率協会総合研究所 (2022). 小児慢性特定疾病児童とその家族の支援ニーズの把握のための実態把握調査の手引き書 1-43.

- 大部令絵 (2018). 慢性疾患患者の就労および医療に関する課題の関連性 社会福祉, 59, 49-59.
- 大谷尚 (2008). 4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案——着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—— 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要, 54(2), 27-44.
- 大谷尚 (2011). 明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法, 日本感性工学会論文誌, 10(3), 155-160.
- 佐藤舞 (2016). 大学生の就職活動および自己効力の縦断的研究, 教育心理学研究, 64, 26-40.
- 沢田美紀・小畑文也 (1995). 病弱児の学習性無気力について——Hopelessness (失望感) を指標として—— 心身障害学研究, 19, 41-51.
- 下山晴彦 (1986). 大学生の職業未決定の研究 教育心理学研究, 34 (1), 20-30.
- 鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ (2016). 生涯発達心理学・認知・対人関係・自己から読み解く 有斐閣アルマ
- 田垣正晋 (編著) (2006). 生涯・病と「ふつう」のはざままで 明石書店
- 武井修治・白水美保・佐藤ゆき・加藤忠明 (2007). 小児慢性疾患におけるキャリアオーバー患者の現状と対策 小児保健研究, 66 (5), 623-631.
- 谷口明子 (2014). 病弱児の社会的自立のために“つけたい力”とは ——キャリア発達支援の観点からの探索的研究—— 東洋大学文学部紀要, 教育学科編 40, 111-120.
- 土屋雅子・田崎牧子・鷹田佳典・高橋都 (2019). 小児期, AYA 期発症がん経験者の初めての就職活動における病気開示の意思決定への影響要因と採用面接担当者の反応 The Japanese Journal of Pediatric Hematology/Oncology, vol. 56(2), 189-197.
- 上村有平 (2007). 青年期後期における自己受容と他者受容の関連 ——個人志向性・社会志向性を指標として—— 発達心理学研究, 18(2), 132-138.
- 浦上昌則 (1996). 女子短大生の職業選択過程についての研究 ——進路選択に対する自己効力, 就職活動, 自己概念の関連から—— 教育心理学研究, 44 (2), 195-203

渡辺三枝子（編著）大庭さよ・岡田昌毅・河田美智子・黒川雅之・田中勝男・中村恵・堀越弘・道谷里英（2018）. 新版キャリアの心理学 ―キャリア支援への発達のアプローチ― ナカニシヤ出版

厚生労働省：小児慢性特定疾病対策の概要

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000078973.html>（2024年1月5日閲覧）

厚生労働省：政策について. リウマチ・アレルギー情報 “第2章 アトピー性皮膚炎（3.学童・成人アトピー性皮膚炎の臨床像・病態・経過）”

<https://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/kenkou/ryumachi/dl/jouhou01-05.pdf>
（2024年1月5日閲覧）

文部科学省：大学における学生生活の充実方策について

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm
（2024年1月5日閲覧）

厚生労働省：令和4年版 労働経済の分析 ―労働者の主体的なキャリア形成への支援を通じた労働移動の促進に向けた課題―

<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/21/dl/21-1.pdf>（2024年1月5日閲覧）